

# みんなに届け!全国に拡がれ! リユースで地球も人も笑顔に!

「リサイクルしているから環境によい」と多くの方が思っている中、「リサイクルよりも大切なのはリユースなんだ」と気付いていただく、今回のキャンペーンは、たいへん新しい取り組みで、いわば、トップランナーの取り組みでした。リサイクルでは、環境はよくなりませんし、税金の使い方としても、有効ではありません。例えば1本のPETボトルの飲料水ですが、製造からリサイクルまでに、300グラムのCO2を出しますし、市町村のリサイクル費(税金)も5円かかります。一人が、ペットボトルをやめてマイボトルに変えたら、一年間に、100キロのCO2を削減できますし、2000円の税金を節約できます。もし、1万人が気付いてくれたら、千トンのCO2を削減しますし、2千万円の税金を、ごみリサイクル費用から福祉や教育などに振り向けられます。もし、100万人が気付いてくれたら、もし1千万人が気付いてくれたら…。リユースにエコポイントを提供する取り組みが全国に拡がり、一人でも多くの方が気付いていただけることが望まれます。

## 町田市長からのメッセージ



町田市長  
石坂 丈一氏

「すきだ、まちだ、りゅーすだ」キャンペーン関係者の皆様、大変お疲れ様でした。今回のキャンペーンを通じて、改めて「リユース」の大切さをPRすることができたと思います。使い捨てのものを買わないこと、マイバック、マイボトル、マイ箸などを持ち歩くこと、繰り返し使える商品を選ぶことなど、一人でも多くの方が少し生活スタイルを工夫することで、ごみの減量や資源化、環境負荷の低減に貢献できることが、ご理解いただけたものと思います。また、今回のキャンペーンでは、次世代を担う若い方々の参加も多数あり、学生・市民・事業者が力を合わせて進めた、大変有意義なリユース普及活動だったと感じております。今後、町田市といたしましても、町田市商店会連合会をはじめ実行委員会の皆様、今回のキャンペーンにご参加いただいた市内の100店舗の商店の方とともに、さらなるリユースの普及・拡大を目指していきたく思います。ご協力をお願いいたします。

## キャンペーン実行委員からのメッセージ



実行委員長  
木野 直美

(まちだRびん普及・拡大を進める会)

ごみやCO2を削減し持続可能な循環型社会を築くためには、リサイクル(再生利用)ではなく、一人ひとりのリデュース(減量)やリユース(くり返し使う)の行動が大切、ということに気付いてもらうキャンペーンでした。商店は「ごみになる物」を売らず、消費者は「ごみになる物」を買わない。行政と共に「環境先進都市・ごみゼロのまち」を目指して「2R」の実践を商店街から発信して欲しいと考えています。



副実行委員長  
柳沢 秀秋

(町田市商店会連合会会長)

町田商連が今年60周年を迎え、この年に一緒に企画できたことを大変うれしく思っております。すき・まちポイントの加盟店と協力店で100店舗の参加ということで、強い絆が結ばれたと感じました。町田商連では地域に密着した活動をこのポイント事業で行えたことを誇りに思っております。今後は商品を販売する側も購入する側も「エコ」に対する意識が高まっていくことを期待します。



副実行委員長  
中村 秀次

(びん再使用ネットワーク代表幹事)

「リサイクルでなく、リユースです。リユース活動で商店会を活性化しましょう」と、町田市商店会連合会に訪問して提案させていただいたのが、最初の一步でした。「リユース」という聞きなれない提案にもかかわらず、快諾を得られたのは、商店会、市民、学生、行政と一緒に培ってきた「環境都市」への思いなのだ、と、キャンペーンの終盤で感じました。町田市から全国へ、これからも発信し続けて欲しい。

## キャンペーン参加メンバー(協力団体・協力者)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| 社団法人 全国清涼飲料工業会<br>日本ガラスびん協会<br>ガラスびんリサイクル促進協議会<br>東京包装容器リサイクル協同組合<br>東京コカ・コーラボトリング株式会社<br>東京都生活協同組合連合会<br>株式会社 高原書店<br>ブックオフコーポレーション株式会社<br>中国料理 上海公司<br>リサイクル運動推進事業協会<br>FC町田ゼルビア<br>町田酒販協同組合<br>商店街の皆さん<br><br>立川市商店街振興協同組合 池谷和子<br>NPO法人LIFE 地球の友と歩む会 清網春香<br>漫才コンビ「だいごまこと」<br>ピン笛合奏団Laマーズ・響屋スタジオ<br><br>九都県市マイボトル宣言参加コーヒージョップ 7事業者<br>●タリーズコーヒーマーケット ●ドールコーヒーマーケット<br>●ニューヨーカースカフェ<br>●カフェティエスプレッソ珈琲館 ●エクセルシオールカフェ<br>●ベックスコーヒーマーケット ●スターバックスコーヒーマーケット<br><br>給茶スポット 2店舗<br>●老舗 ひじかた園 ●長峰製茶 | 弁当屋 11店舗<br>●社員 ●菜の花 ●Cスクエアあじさい ●太陽<br>●ニコニコキッチン ●イズミ産業日本料理 広美<br>●ワタミタクシヨク ●協同組合町田給食センター<br>●カトリア ●デリシャス ●タイハイ<br><br>酒販店 6店舗<br>●(有)かわせん ●(有)豊国屋商店 ●エスポア なかのや<br>●(有)杉本屋酒店 ●(有)かたの山崎店<br>●リカーショップ みさわ<br><br>大学<br>桜美林大学 環境サークル エコレジ<br>東京女子大学 秋麗祭実行委員会<br>法政大学 多摩キャンパス 環境系総合サークルHELP!<br><br>大学生協<br>桜美林学園消費生活協同組合<br>法政大学生活協同組合 多摩<br><br>町田商工会議所<br><br>東京都環境局 廃棄物対策部資源循環推進課<br><br>新聞社<br>サンケイリビング新聞社<br>株式会社 町田ジャーナル社 | 株式会社 タウンニュース社<br>東京新聞 ショッパー社<br><br>ラジオ局<br>FMさかみ<br><br>後援: 町田市<br>町田市役所 環境資源部ごみ減量課<br>町田市役所 経済観光部産業観光課<br><br>学生・市民と進めるリユースびん普及プロジェクト参加団体<br>●Rびんプロジェクト ●容器包装の3Rを進める全国ネットワーク<br>●てとて倶楽部 ●全国びん商連合<br>●リターナブルびん普及促進協議会<br>●拡大生産者責任とデポジット制度の実現を目指す全国ネットワーク<br>●WorldSeed ●千葉大学 環境ISO学生委員会<br><br>その他<br>アビームコンサルティング<br>町田ゼルビアを支える会<br>株式会社FVP<br>多摩暮らしの会<br>障がい者就労・生活支援センター レッツ<br>町田の丘学園 |
|---|--|---|

■主催: びん再使用ネットワーク

(構成: パルシステム生活協同組合連合会、東都生活協同組合、生活クラブ生活協同組合・東京)

■企画運営: 「すきだ・まちだ・りゅーすだ」キャンペーン実行委員会

(構成: 町田市商店会連合会、まちだRびんの普及・拡大を進める会、びん再使用ネットワーク、他、町田市内の大学生、市民の皆様)

# リユースにエコポイントを提供する取り組み

「すきだ・まちだ・りゅーすだ」  
キャンペーンの記録

実施 ●2010年10月3日(日)～31日(日)●市内の商店 100店舗

# もっとリユースを楽しんでほしい!

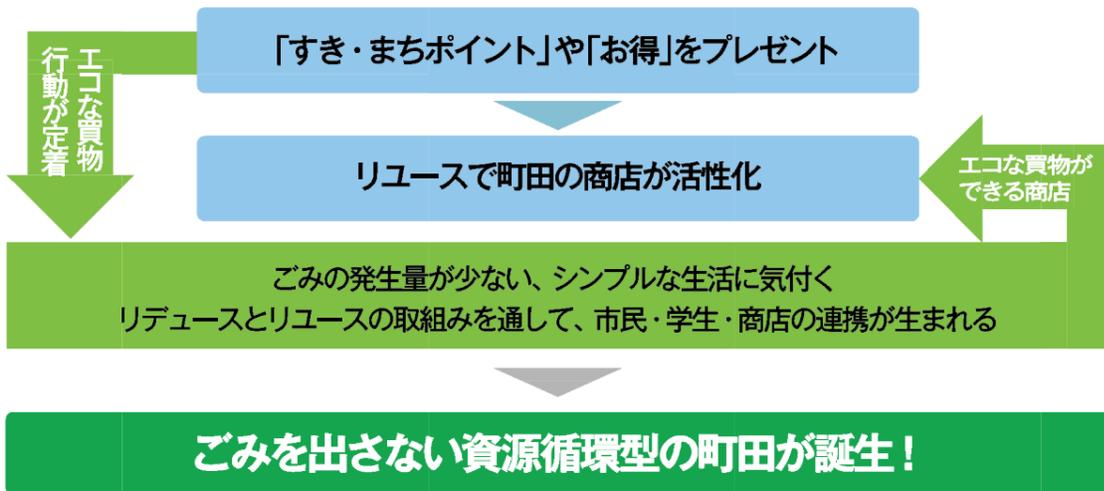


# 私たちが目指したのは、 ごみを出さない資源循環型の街づくり

「ごみ」を減らそう!でも、リサイクルでは、「ごみ」は減らない。リサイクルより大切なこと、それが、リデュースとリユース。  
使い捨て容器入りの商品を、なるべく買わないこと、それがリデュース。  
マイバッグやマイボトル、マイ箸などを持ち歩いたり、  
くり返し使うびんを選択して「ごみ」を出さないこと、それがリユース。  
いま、多くの人たちが気が付き始めた、そして、もっとみんなに知ってもらいたい、やってもらいたい

商店会発行のキャンペーン期間中、市内のあちこちの商店で、リユースを実践していただくと、ポイントががついたり、コンサートのチケットがもらえたり、値引きしてくれたりという、楽しい仕掛けを用意しました。スイカ、パスモとも連動した商店会発行の「すき・まちポイント」が、物の命を大切に暮らすのヒントを、多くの市民に提供しました。

## ■「すきだ・まちだ・りゆうーすだ」キャンペーンの概念図



# リユース・エコポイントの取組み キャンペーン企画から、参加店募集、イベント開催まで

びん再使用ネットワークは、「ガラスびんをくり返し使って、ごみを出さない」という取組みを行っている、6つの生協のネットワークの団体です。「リユースの大切さに気付いて欲しい」と、これまで学生や市民団体の皆さんと一緒に、イベントやWEBを活用した広報を展開してきましたが、今回は、「リユース」を地域に根付かせていきたいという思いから、2009年の暮れに町田市商店会連合会に「リユースにエコポイントを提供する」を提案しました。提案に対して、快く受け入れていただき、また翌年の4月に地球環境基金の助成も得られたことで、市民団体、商店会、びん再使用ネットワーク、3つの主体の共同作業で「すきだ・まちだ・りゆうーすだ」キャンペーンの準備が始まりました。

## 「すきだ・まちだ・りゆうーすだ」キャンペーンの実施概要(ダイジェスト)

■5月7日  
「すきだ・まちだ・りゆうーすだ」キャンペーン実行委員会(以下実行委員会)の立上げ準備打ち合わせ①

■6月2日  
実行委員会の立上げ準備打ち合わせ②  
(①②とも町田市商店会連合会事務所)  
びん再使用ネットワーク事務局より町田市商店会連合会の主要メンバーに、企画概要を提案し意見を交換。実行委員会を立上げるなど、キャンペーンの進め方とスケジュール等について確認する。

■6月8日  
第1回実行委員会(ぼっほ町田・地下会議室)  
地元の商店や大学生、マスコミ関係者や行政担当者等が集まり、キャンペーンの企画内容について意見交換しながら、企画概要とスケジュールを確認。また、実行委員長、副実行委員長、事務局、事務局担当者を選出。

■6月27日  
立川市羽衣商店街の取組を視察  
キャンペーン企画の参考に、立川市の羽衣商店街で開催していた「たなばたエコフェスタ」を見学する。

■7月6日  
「立川商店街のおかみさんのお話を聞く会」(ぼっほ町田・地下会議室)  
第2回の実行委員会の開催に合わせて、立川市商店街振興組合連合会の女性部長池谷和子さんの講演会を開催。  
第2回実行委員会  
広報用ツールについて検討。また、10月、11月のリユースイベントの企画内容について検討を進める。  
2010年度・第1回 学生・市民と進めるリユースびんプロジェクト  
キャンペーンの企画概要を共有する。講演会と実行委員会にも合流。

■7月中旬～8月末  
キャンペーン参加店舗の募集や後援呼びかけ活動を展開  
「すき・まちポイント」加盟店には、「すき・まち通信」で参加店舗を募集し、その後、実行委員会事務局が訪問や電話で実例を話し、できる事を提案しました。その結果、参加は60店舗。加盟店以外の古本屋、修理の店、酒販店などには、実行委員会事務局が訪問して呼びかけました。その結果、参加は40店舗。合計参加は100店舗。

■8月31日  
第3回実行委員会(ぼっほ町田・地下会議室)  
キャンペーン参加店舗が実行委員会の特設スペースに集まり、各店舗の企画内容を最終確認。10月・11月のリユースイベントの企画内容が確定する。

■10月3日  
町田ごみフェスタに出展(町田リサイクル文化センター)  
キャンペーンのスタートアップとして、来場した市民に呼びかけチラシを配布しキャンペーンへの参加を促す。またびん再使用ネットワークのリーフレットで、環境に対するリユースの優位性やリサイクル費用について

説明する。R10ロップス2号の試飲とアンケートも実施。町田市商店会連合会は「エコ宣言」のPR。桜美林大学環境サークル エコレジはレジ袋削減のPRを行う。

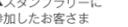
■10月3日～31日  
キャンペーン開催(町田市内の商店100店舗)  
期間中、参加店へマイバッグ・マイボトル、マイ箸などを持参したお客さまに、「すき・まちポイント」や様々な「お得」をプレゼント。またコンサートやサッカー観戦のチケットをプレゼントするスタンプラリーも実施する。

■10月5日  
ぼっほ町田・リユースイベント(ぼっほ町田・屋外広場)  
ちらしの配布。レジ袋減らし隊のレジ袋削減のPRと意識調査。びん再使用ネットワークのR10ロップス2号の試飲と意識調査。(株)全国清涼飲料工業会による清涼飲料水の試飲とリユース体験。日本ガラスびん協会とガラスびんリサイクル促進協議会のガラスびんアワードの紹介やリターナブルびんの展示。ブックオフ(株)による古書販売。FC町田ゼルビアのキャンペーンPRや上海会社が鳥肉をリユース食器を使って販売。催事でのリユース食器使用促進のためのPR。

■10月24日  
ターミナルプラザ・リユースイベント(ターミナルプラザ市民広場)  
町田市商店会連合会60周年を記念して「エコ宣言」を行う。2000人を超える人たちが、古書市やフリーマーケットなどで、身近なところから参加できるリユースを体験。この日から「オリジナルエコグッズ」の販売を開始する。

■11月7日  
町田市民フォーラム・リユースイベント(町田市民フォーラム・3Fホール)  
●リユースの取組報告&リユース漫才  
来賓の石阪市長や地元国会議員から挨拶をいただいた後、「だいごまこと」のリユース漫才を挟みながら、全国から参加している「リユースびん普及プロジェクト」のメンバーや、協力事業者、町田商連や桜美林大学生が様々な報告を行い共有する。  
[報告者(敬称略)]  
山本義美(びん再使用ネットワーク事務局)、中井八千代(容器包装の3Rを進める全国ネットワーク事務局)、西村優子(Rびんプロジェクト代表)・中島光(奈良県立大学3年・リターナブルびん普及促進協議会代表)、永澤由紀子(てとて倶楽部顧問)、吉永茂樹(日本ガラスびん協会専務理事)・幸智道(ガラスびんリサイクル促進協議会事務局)、河辺益幸(全国びん商連合会副会長)、柳澤秀秋(町田市商店会連合会会長)、林祐太(桜美林大学2年・環境サークル エコレジ代表)

●ビン笛コンサート  
キャンペーンのスタンプラリーに連動した企画として、ビン笛奏楽団「Laマーズ(らまーず)」のコンサートを開催。(ビン笛とは、いろいろなびんに水を入れて音階をつけ、それを吹いて音を出す楽器のこと)  
第2回 学生・市民と進めるリユースびんプロジェクト  
リユースイベントの合間にプロジェクトを開催し、キャンペーンの実施状況を共有する。また、第3回のプロジェクトで行う「振り返り」に向けた意見交換を行う。



## キャンペーンを広くアピールするための広報展開

# これを参考に、あなたの街でもリユースの取り組みを!

より多くの市民にキャンペーンの内容を認知していただき、リユースを楽しみながら使い物をしてイベント等にも参加していただくために、多種多様な広報を実施しました。実行委員会から参加店舗に対しては、A2判ちらし、のぼり、ポスターを提供して市民への告知を促し、さらに様々な広報誌やホームページなどのメディアを有効活用して、積極的なアピール活動を展開しました。

### A2判ちらし

A4サイズに折り込まれたちらしには、キャンペーン情報を網羅しました。町田市商工会連合会発行の「すき・まちポイント」カードに使われているカラー(パープル)も踏襲し親しみやすくなりました。60000部制作し、キャンペーン参加店舗の他、市内の大学、小・中学校、市の観光課、その他公共施設、市民団体、商工会議所などに配布しました。

表紙



### ■表紙イラスト

表紙には、キャンペーン参加店舗のスタッフ、市民、市役所の職員などをイラストで描き、実際にお聞きしたコメントを掲載しました。この報告書の表紙でもキャンペーン後のコメントを掲載しています。

●第一見開き



### ■キャンペーンのコンセプト

ちらしのイントロでは、「ごみやCO2の排出を減らすために大切なのはリデュースとリユース」というキャンペーンの主旨を、具体的なイラストで表現しながら、わかりやすく伝えました。

### ■市内のリユースの取り組み

キャンペーン情報とともに、マイボトルを使えるコーヒーショップ、リユース容器を使っているお弁当屋さん、リユースびん入りの清酒などの情報を紹介。さらに市内の大学の学園祭情報も告知しました。

## 町田市がキャンペーンを支援

キャンペーンの実施にあたり、町田市環境資源部ごみ減量課および経済観光部産業観光課に協力をお願いし、主旨について理解と賛同をいただきました。また市の施策の推進に寄与できる内容との判断で、市の後援事業とするようアドバイスをいただき、申請の結果「後援」が決定。キャンペーン期間中、催事への出席、広報の協力、情報提供など積極的に事業の成功にむけて支援していただきました。



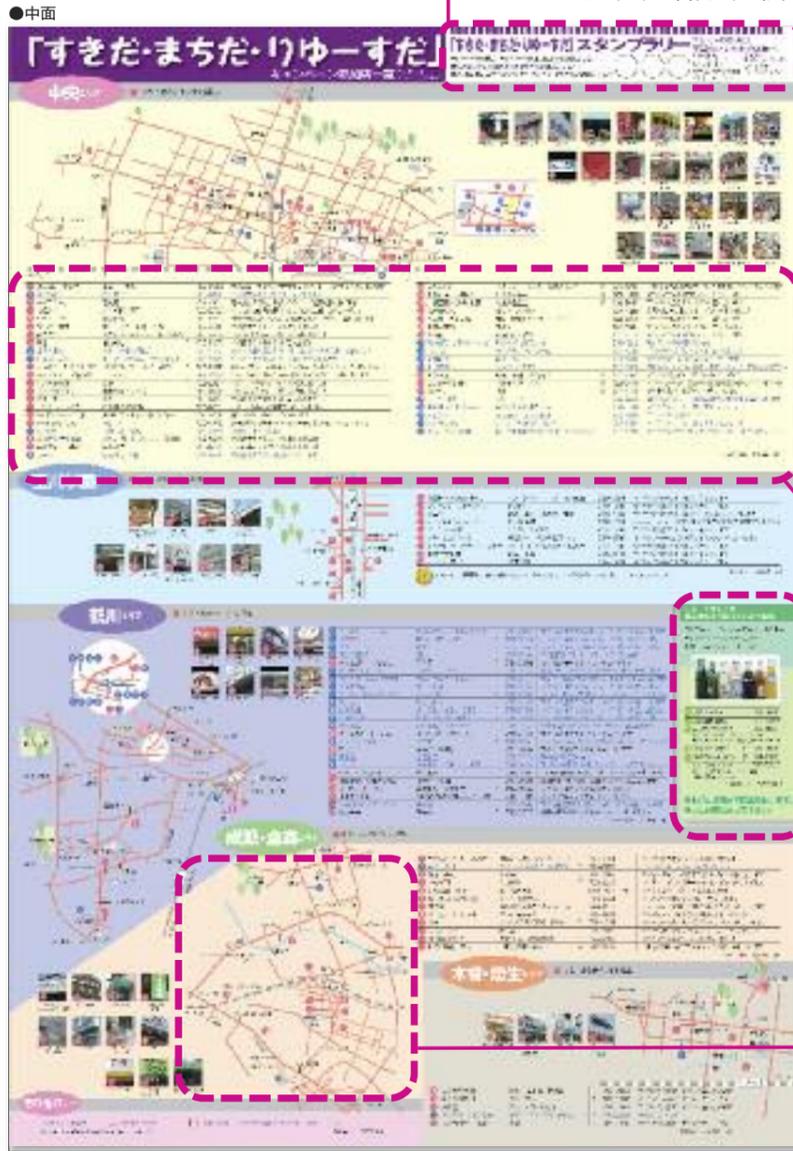
▲市の電光掲示板による広報



▲市報による情報告知

### ■スタンプラリー

中面上部に、サッカー観戦とコンサートのチケットをプレゼントするスタンプラリーの情報を掲載。このスペースだけでの告知では広く伝わりきれず、より多面的なアピールが求められました。



●裏面



### ■リユースイベント

裏面では、キャンペーンに伴い実施された「町田市民フォーラム・リユースイベント」、「ほっぽ町田・リユースイベント」、「ターミナルプラザ・リユースイベント」について、その内容を告知しました。

### ■参加店舗情報

キャンペーン参加店舗の取扱い情報やキャンペーン中の特典などを紹介。「すき・まちポイント」加盟店とその他の協力店を色別に記載しました。

### ■リユースびん入り清涼飲料水を扱っている酒販店

くり返し使えるリユースびん入りの清涼飲料水を扱っている酒販店を紹介。リユースびんは、買ったお店に戻すように呼びかけました。

### ■参加店舗マップ

参加店舗の場所がわかるよう、エリア別に位置情報を掲載。参加店舗情報の番号に対応させました。

### のぼり

キャンペーン参加店舗であることを店頭でアピールするため、のぼりを100枚作成。ちらしの表紙イメージに合わせて、リユースを楽しむことをアピールしました。

### A3判ポスター

ちらしの表面と裏面をあわせてA3判のポスターを200部作成。のぼりを立てるスペースがない店舗の他、市の公共施設等に配布しました。

●ポスター



### キャンペーン広報メディア一覧

- NPO法人「にろくの会」 月刊 にろく新聞 2010年7月6日
- 東洋ガラス株式会社 シナプス 2010年 12月号
- ショッパー 2010年9月16日・9月30日・10月14日
- リビングまちだ・さがみ 2010年9月25日・10月23日
- えるこみ (リビング新聞の公式サイト)
- タウンニュース町田版 2010年9月30日
- 町田市文化・国際交流財団ニュース 2010年10月 10・11月号
- 町田商工会議所ニュース2010年9月20日 10月号 10月20日 11月号
- 町田まちづくり公社 公式HP
- 広報まちだ 2010年10月1日
- 町田市 公式HP
- 小田急北口モニュメント 電光掲示板
- ゼルビアプレス 2010年10月2日
- 町田ジャーナル 2010年11月15日
- FMさがみ 2010年10月25日  
テイクハート・タイム10:00~10:20
- 町田市商工会連合会 2010年10月 商連便り 秋号
- 町田市商連合会 すき・まちメールマガジン
- びん再利用ネットワーク HP
- ガラスびんリサイクル促進協議会ニュース 2010年10月12日
- 日本ガラスびん協会ニュース 2010年10月27日
- ゼロ・ウェスト通信 2011年1月28日



実行委員会メンバーがFM放送に出演

### ▼キャンペーン情報掲載誌



# 約1カ月にわたり、町田市内の100店舗で キャンペーンを展開参加店舗より

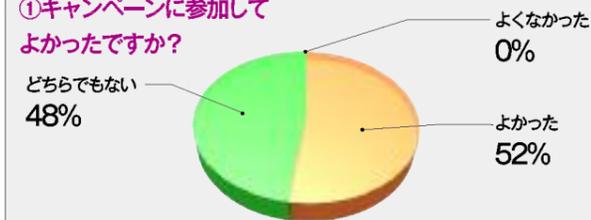
## 「やってよかった!」「今後も続けたい!」などの声をいただきました。

今回のキャンペーン参加店舗は、町田市内の中央、成瀬・金森、木曽、鶴川、玉川学園のエリアで営業している「すき・まち」加盟店と協力店、合わせて100店舗。鶴川団地センター名店街では全ての店舗が参加して、「エコ通り商店街」となりました。玉川学園では商店会全体で工夫を凝らし、「マイバッグ」持参のお客さまにスタンプラリーで満足感を提供するなど、様々な催し物を同時に展開しました。参加店舗からは、「やってよかった」「今後も続けたい」などの声をいただきました。

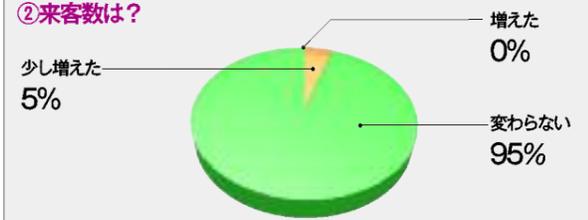
「すきだ・まちだ・リユースだ」キャンペーン ・アンケート結果

	アンケート送付数	回答数	回答率
「すき・まちポイント」加盟店	59店舗	33	55.9%
協力店	40店舗	15	37.5%
その他(弁当屋・酒販店)	17店舗	12	70.6%
総数	116店舗	60	51.7%

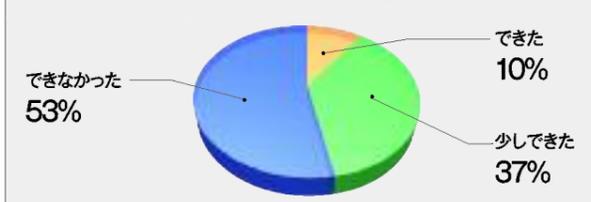
### ①キャンペーンに参加してよかったですか?



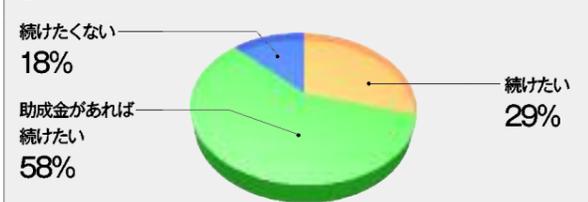
### ②来客数は?



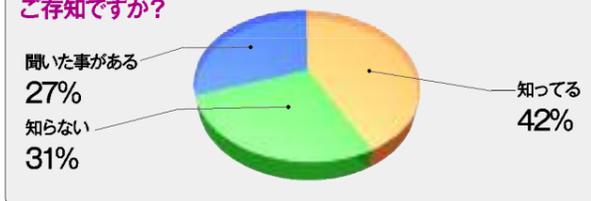
### ③チラシのサービスはスムーズにできましたか?



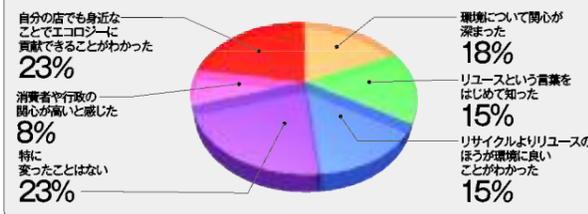
### ④今後もサービスを続けたいですか?



### ⑤町田商連が60周年を記念して「エコ宣言」をしたのをご存知ですか?



### ⑥キャンペーンに参加して変わったことはありますか?



### 「エコ」を考える町田で「すき・まちポイント」の利便性を広めていきたい!

町田市商店会連合会では、以前から「ごみの減量」に取り組んできましたが、今回のキャンペーンは大変ありがたいお話でした。私どもが発行している「すき・まちポイントカード」ならびにバスモやスイカに、エコによるポイントを提供するというのは、まさに理想の試みだと思えました。エコロジーについて、わかっているにもかかわらず実行できない状況がありましたが、このキャンペーンにより、事業者と市民と行政が一緒になって環境問題に取り組むためのきっかけにもなりました。リサイクルがいいことだと思えていましたが、それよりもリユースがもっとも環境に優しいことだと、今回参加してみて、実感することができました。今回参加した協力店とは今後も手をつなぎ合い、行政のお力添えをいただきながら、ますます「エコ」を考える町田で「すき・まちポイント」の利便性を広めていきたいと思っています。



町田市商店会連合会 ▲キャンペーンの結果を報告する柳澤会長



### ⑦キャンペーンに参加してどんな感想をもたれましたか?

#### 「すき・まちポイント」加盟店の回答

##### 【キャンペーンの目的に対するお店の感想・評価】

- 身近なところから環境に貢献できる機会をいただけたことに、感謝します。スタッフの意識の向上につながりました
- スタッフの意識の向上につながりました
- リサイクルよりリユースが大事だと思った
- 身近なところでリユースができることが、とてもよくわかった
- 環境問題意識は開店当時からあり、チラシなどで伝えてきたが、やっと今なのかと思う
- このキャンペーンは、お店よりむしろ自治会などを通して、一般市民に意識を持たせたほうが効果的だと思った。ただお店も意識を持つことは大切だと思う
- 大々的に行われたキャンペーンでしたが、個店レベルですでに(マイバッグ持参)はやっているので変わった感じはしなかった
- リユースにまだまだ関心がないように思う
- 短い期間でしたので特にありません

##### 【消費者・来店者について】

- お客様の来店がなく、キャンペーンに参加はしたもののリユースに貢献した印象がなかったのが残念でした。次回に期待しています
- もう少したくさんの来店があればよかった
- 一般の方がこのキャンペーンをやっていることを、ほとんど知らないようだった
- もっと周知、啓蒙するべきと思う
- すき・まち会員でない人は関心が薄い
- チラシ・広告を見た会員さんは来店したが、会員でない人は来店していない
- メルマガに登録していない人はキャンペーンを知らない

##### 【チラシについて】

- スタンプラリーが目立たなかった、わかりにくい
- 用紙が大きすぎたような気がする
- 折りたたんであるので、いちいち広げて説明しきれない
- スタンプラリーの用紙を早くほしかった。

##### 【今後への期待】

- もっともっと広がってほしい
- 助成金関係なしに継続すべきと思う
- 次回につなげてほしい、参加店を増やしてほしい
- 地元の商店街でもペットボトル、アルミ缶、キャップなどをリサイクルしてサービス券を発行していますが、これからもこのような試みが多くなることを期待しています

##### 【その他】

- のぼりが可愛かったが、これで終わってしまうのがもったいないと思った
- 期間が短かった
- 買い物袋を持参しても、すき・まちポイントカードを持っていないため、ポイントの付与ができなかった
- 玉川学園商店会では、会員店にお知らせし参加店を募集したが、すき・まちポイント加盟店のみとなった。銀行・郵便局・各団体に事前チラシを配ったが、初めての試みのせいか盛り上がり欠けた

#### 協力店の回答

##### 【キャンペーンの目的に対するお店の感想・評価】

- 今、リユースをやっても関心はもたれない
- 会社としての経営理念である「環境に優しい」をもっと積極的に取り組みたい
- 今まで孤独にエコをやってきたという感じていたが、仲間が増えて頼もしく感じるようになった
- 一般の方がどの程度の関心なのか不明
- お店としてはあまり力になれなかったが、個人的にはエコについて関心をもつことができた
- 使い捨てが便利なこの時代に、重くて、割高のびん入り商品を買う人は少ない。買う人はあまり増えないと思う。酒販組合で数年前に行ったが効果なし
- すでに開店から22年間、買い物袋有料化(リユース)、牛乳パックの回収とそのパックによるトイレトーパーの企画に参加しています
- お客様の大半は買い物袋持参です
- リユースは物によってはコストとエネルギーがかかる場合もある
- 無駄な消費を減らし、買い物袋は分解し、環境に負荷のかからない物を共同で取り組むといった、踏み込んだ企画があるとアクションしやすい
- エコについて、何でも使い捨てはよくないと感じました
- 環境問題は大切で必要なことだから、地道に続けることが大切だと思う

##### 【消費者・来店者について】

- 旗を立ててパンフレットを置いていただけではお客さんは関心を持ってくれない。一人一人に話が出来ればいいが、忙しく余裕がなかった
- 一人一人に話が出来ればいいが、忙しく余裕がなかった
- 認知度が足りない
- いまひとつ、全体にキャンペーンが浸透していないと思った

##### 【チラシについて】

- 多くのチラシが残って資源ごみになってしまった
- チラシが「大きすぎる」「かさばる」と受け取り拒否もあった
- チラシ(パンフレット)をたくさん送ってもらったが、店頭のお客様が少なく残ってしまった。高価なチラシがもったいない
- チラシが足りないお店があったので、次回やるときは要望を聞いてからでもいいのではないか

##### 【今後への期待】

- エコ意識が広まっているので今後も協力できることがあれば参加したい
- その他
- ビンの規格の統一が大事自販機の清涼飲料水のビンはキャッシュバックするので、ビンの戻る割合90%。首飾りは付けたが、あまり効果がなかった
- ビン物をバラ売りすると戻ってこない、飲食店のビンは戻ってくる